

代替医療

最新ガイド

米国の国立衛生研究所(NIH)は、ハーブをはじめとするさまざまな補完代替医療(CAM)の臨床研究を開始しました。

NIH全体では年間約360億円の国家予算がCAM関係に投入され、その中心的な役割を果たしているのがNCCAM(国立補完代替医療センター)です。

なぜ、米国政府はこれほどの資金を投入するのでしょうか。将来の医療費削減につながるだけでなく、CAMの安全性をしっかりと確認し、科学的なエビデンス(証拠)を集積することが重要だと見ているからです。

我が国では、CAM研究の予算は極めて少ないのが現状です。米国では国民の42%、日本では60%近くの人が自分の判断でCAMを利用している実情を考えますと、もっと国が力を入れてもよいのではと思います。

今回は、ハーブ研究の事例として、米国や西欧では栄養学の教科書にも登場するフランス海岸松エキス(ピクノジェノール)を紹介しよう。

この食品は生理活性成分を数十種類含有しています。このため、さまざまな作用があり、単一物質の薬品とは大きく異なります。

ピクノジェノールの抗酸化作用については多くの文献があり、私たちもピクノジェノールに、サメの肝臓から抽出したスクワレンやビタミンEを添加した食品で健常喫煙者を試験し、この食品がたばこによる遺伝子損傷を抑制することを報告しました。

また、最近、行った第2相

臨床試験でピクノジェノールが月経困難症(いわゆる生理痛)に有用であることも報告し、現在第3相臨床試験で確認中です。

このほか、ピクノジェノールには、動脈硬化症による末梢性血流障害、脳血流障害、高血圧症、血栓症、ADHD(注意欠陥多動性障害)、網膜症(下肢の浮腫(むくみ)、静脈瘤、アレルギー性疾患、



鈴木 信孝
エコノミークラス症候群、変形性関節症など多くの疾患に関する研究報告があります。

フランス海岸松エキス

NCCAMが行っている臨床試験は、手術後のリンパ浮腫に対するピクノジェノールの作用についてです。

食べて本当に安全なのか気になる人も多いと思いますが、実はピクノジェノールはこの種の健康食品の中では安全性について最も多く試験されたもののひとつです。

本食品は、米国FDA(食品医薬品局)の専門家による厳しい安全性試験をクリアした証明を得ています。つまり、遺伝子に変異を起こすかどうかの各種変異原性試験、染色体異常試験、ヒトが過剰に摂取した場合の試験などが行われ、国が安全と認めた食品ということになります。

日本の製品でこの米国の安全性基準を取得したものは少なく、リンゴポリフェノールやトレハロースなど数えるほどしかありません。

新聞やテレビで健康食品の安全性が問題にされています。企業は、まず自社製品の安全性をしっかりと検証してもらいたいと思います。

(金沢大学補完代替医療学講座 座特任教授)



ピクノジェノールの原料となるフランスの松の木(鈴木信孝氏提供)